

22 Community

NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ

eメール <http://goo.gl/v9xa>

NHK★監激コム HP <http://goo.gl/g2Lr>

入会申し込みフォーム <http://goo.gl/IEfn>

↑↑ 年会費 1000 円です。FAX 059-222-3165

「坂の上の雲」全国ネット <http://goo.gl/HmAqW>

レポート

全国シンポジウム「松山から『坂の上の雲』を問う」

大韓帝国強制併合 100 年 愛媛大学学生祭行事
愛媛大<グリーンホール>で 2010/11/13～ 11/14

■ 主催者代表挨拶 愛媛大法文学部 的場竜一さん
“「韓国併合」100 年に思うこと”

昨年夏 10 日間韓国にいったが、純粋に一人の人間
として友好を願う人ばかりだった。「みんな“反日”

なんだろうな」と事前に考えていた自分の認識が偏見だったのではないかと考える
ようになった。「韓国併合」の決着がついていないことが現在の日本と朝鮮半島の
問題の根源ではないか、もっと多くの人に「韓国併合 100 年」の意味を考えて貰
う必要があるのでは、という問題意識から今回のシンポジウムを企画しました。

いろいろな人の意見を聞き「新たな発見」があれば「実行委員会」としてうれし
く思います。



(以下各パネリストの講演を聴いてのレポート)

明るくない明治こそが「暗い昭和」につながった －「坂の上の雲」と福沢諭吉－

安川寿之輔さん(名古屋大名誉教授)

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり」という伝聞態の冒頭句とそれに続く「学問のすすめ」
の内容が思想的に乖離していることを無視し、丸山眞男
は福澤諭吉を「典型的市民的自由主義者」と規定した。
(「丸山諭吉」神話)

『一身独立して一国独立す』についても、NHK がドラ
マで秋山好古にいわせた「人、ひとりひとりが独立して
初めて国家が独立できる、そういう意味じゃ」とはおよ
そ関係ない、「独立の気力」＝「国のためには財を失ふ
のみならず、一命をも抛(なげう)ちて惜むに足ら」な
い、国家主義的な「報国の大義」以上のことは「すすめ」
には書かれていない。

丸山さんの致命的な誤りは、「先づ事の初歩として自国
の独立を謀り、『一身独立』のようなその他の課題は之
を第二步に遺して、他日為す所あらん」と本人が公約し
ているのに、「一身独立」と「一国独立」の二つの課題
は、「見事なバランスを保っている。それは…美しくも
薄命な古典的均衡の時代」云々と解釈したことです。

信じ難い事実ではあるが、有名な学者達がそろって丸
山さんの決定的な誤読に追従した。

自由民権運動と遭遇した福沢は、「他日為す所あらん」
との公約を破棄し『学問のすすめ』のように百姓や車引
きまで啓蒙するのは断念すると表明して、「馬鹿と片輪
に宗教、丁度よき取合せならん」と宗教教化路線に転じ
た。

欧米「先進」諸国が、社会主義や労働運動の進展で「狼

狽して方向に迷う」現実を認
識した福澤は「強兵富国」の
「無遠慮に其地面を押領」す
るアジア侵略路線を選択し
た。

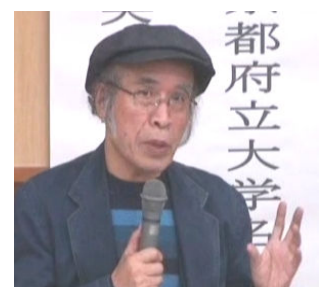
(近代日本最大の保守主義者たる所以)

福沢は日本人の「従順、卑屈、無気力」の性格・気質
を「先天の性」「わが日本人の『殊色』である」と賛
美し…この国民性に依拠して以後の近代日本の資本主
義的な発展を楽観的に展望した。翌年の教育勅語の発
布を福沢が「感泣」をもって歓迎し…尊大な大国意識を
持った排外主義的国民として立ち振る舞うよう国民を励
ました…(その)福澤の先駆的罪業が 21 世紀の日本の
精神的風土に道を開いた。

(日本人は未だ精神的「一身独立」を達成できていない。
自分なりの見方考え方、自分なりに固執する原理原則に
もとづき自主的に行動することが極めて不得手。集団意
志の優先、自分では考えず環境に埋没。“KY”。)

労働者・農民だけでなく知識人までが、召集令状一枚
によって、自己の生命と人生をいかようにも左右される、
そういう国家に生きていたにもかかわらず、…そういう
巨大な力をもつ<国家>とは一体なにか、それはいかな
る原因や理由によって存在するのかという、「<国家>
の本質、起源、存在理由」への「問いは、ひとびとの意
識の上に、絶えて浮ば」なかったという衝撃的な事実を、
小松茂夫は解明した。

「良心的兵役拒否」を規定し
た独憲法の下、1999 年ドイツ
の青年の 60.8%がこれを選択
している事実は、ジョン・レノ
ンの“イマジン”の世界が夢想
でない可能性を示唆する。



目からうろこの「福沢諭吉論」を 喝破された安川先生

投稿：岡田（会員）

私が“松山から「坂の上の雲」を問う全国シンポジウム”に参加しようと思ったのは安川寿之輔氏が講演者のひとりとなっておられることを知ったからである。

恥ずかしながら私はつい最近まで安川氏を存じあげなかった。週間金曜日の 8 月 27 日号は“韓国「強制併合」から 100 年”を特集していたが、その表紙に「法螺を福沢 嘘を諭吉」という衝撃的な表現が書かれているのを見て、あわてて中を見ると、安川氏を編集部の成澤宗男氏がインタビューされていた（ちなみに週間金曜日では成澤氏の立ち位置に私は一番共感してきた）。

表題は“虚構の「福沢諭吉」論と「明るい明治論」を撃つ”であった。

これを読むまでは私の福沢諭吉の捉え方は「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」という天賦人權論者でありながら、後半は「脱亜論」を説き日本は西洋のように弱肉強食でいくべきだと、相矛盾したことを論じた人物だという程度の情けない認識しか持っていなかった。ところが、福沢諭吉こそが朝鮮の植民地化・昭和のアジア侵略戦争へと導いた思想家だというのだ。

それも私にとっては著名な政治学者として名前だけ知っている丸山眞男が福沢諭吉を「民主主義の先駆者」と持ち上げたことが一般国民に戦後もずっと福沢の本質を知らないままにさせた張本人だということも知り、まるで私は今まで何を学んできたのかと、自己嫌悪に陥ってしまった位であった。

そこで早速安川寿之輔氏の著書「福沢諭吉のアジア認識」と共著の「NHK ドラマ『坂の上の雲』の歴史認識を問う」を購入して読んでみた。後者の安川氏の論文は短くてそれによりおおよそそのことが認識できたのだが、前者の本は研究論文そのもので、（注）がしょっちゅう出てきてそれをいちいち見ていたらちっとも読み進めない。で、途中からは（注）は見ないで本文だけを追って読んだのだが、それでもなかなか難解ではあった。

しかし、福沢諭吉の著書そのものを読んだこと

のない私にとってはショックの連続であった。朝鮮人・中国人に対して口汚く罵る蔑視の表現―「チャンチャン・・・皆殺しにするは造作もなきこと」「清兵・・・豚尾児、臆病」「朝鮮・・・人民は牛馬豚犬に異ならず」等・・・聞くに耐えないほどの下劣な表現には“百年の恋”（それほどはしていないが）も冷水を浴びせられたかのように消えうせてしまった。なのに、戦後の自由主義的思想界をリードしてきた丸山眞男などがどうしてそれを見破られなかったのかが、安川氏の著書を読んでいて不思議でならなかった。

「丸山神話」といわれるように現在でも私たちは素晴らしい人だと評価されている人はそのまま信じ込んでしまうという弱さを持っている。ということは戦前の人々がお上からのお達しはすべて正しいと信じ込み戦争へと邁進していったのと私たちは変わらないのではないかと、深く反省させられたことである。

さて、前書きが長くなりすぎたが、シンポジウム当日の講演のお話は、2 冊の本の要約的なものだったので、時間的制約で早口で話されたがそれでもよく理解できた。そして初めてお目にかかった安川先生は 70 歳を超えておられるとはとても見えなくお若くダンディであることに嬉しくなってしまった。あんなむづかしい本をお書きになるのだから、さぞかし固まるしいお方だろうかと思っていたが、きさくで庶民的で、私のような無知蒙昧なものにも気軽に声をかけてくださる、諭吉とは正反対の広い心の研究者であられることを知っただけでも、松山まで出かけていった甲斐があったと思う。

「交通費だけいただければどこでも講演に行きますよ」という有り難いお言葉を聞いて、すっかり安川ファンになってしまった私は、ぜひ機会を見つけて私の属する「平和友の会」（立命館大学国際平和ミュージアムでボランティアガイドを中心にして作っている市民団体）の学習会に来ていただいて再度お会いする機会が作れないかと思案しているところである。■



日本は朝鮮の独立のために日清戦争を戦ったのか－伊藤博文はよりましな帝国主義者だったか

醍醐 聡さん（東大名誉教授）

I いまも続く日韓の歴史の記憶と歴史認識の差

NHK が今夏放映した「日本の、これから ともに語ろう日韓の未来」を見ても、日韓の若者の歴史認識のギャップの大きさをまざまざと見せつけられた。今日は「まず知ること」のための「事実」を提供したい。

II 日本は日清戦争を「受け身の」「祖国防衛戦争」として戦ったのか？NHK は日清開戦をどのように描いたか？

1894 年 6 月 9 日、清国軍は東学農民軍鎮圧のため、日本軍は「日本居留民保護」のため出兵した。外国の介入を避けるため農民軍は政府と和約し撤退した。

NHK ドラマでは 6 月 2 日に出兵を閣議決定した際、伊藤博文に「清国軍との戦闘はゆるさん」といわせ、その後 7 月 25 日の豊島沖海戦を伝えた。これではなぜ「居留民保護」から全面戦争になるのか全く解らない。

NHK が飛ばしたこの期間に日清開戦の引き金となった次のような事件が起こった。

・6/10 帰任した大島公使が現地の平穏な状況を目の当たりにして派兵を停止するよう本国政府に繰り返し進言。

・6/16 陸奥外相が派兵軍の駐留の大義名分を得るため、清国に共同で朝鮮の内政改革にあたることを提案したが清国はこれを拒否。

・7/20 大鳥公使、22 日を回答期限として朝鮮政府に清との宗属関係の清算を迫るも朝鮮政府、これに応じず。

・7/23 開戦を決意していた政府は〈戦争の大義名分〉を得るため、朝鮮政府から「清国軍撃退」を依頼させようと、朝鮮王宮を武力占領。国王高宗を無力化し対立する大院君から要請文を出させた。

歴史の教訓をしっかりと伝えることがNHKに求められる社会的責任であると考えが「戦地での宣戦布告の手順」という局所だけがズームアップされ日本政府の武力的威嚇、朝鮮の主権侵害という不法行為は黙殺された。

Ⅲ 原作とドラマは伊藤博文をどのように描いたか？ 朝鮮の自治を尊重した平和主義者と描く歴史歪曲

★ 伊藤博文をめぐる日韓の記憶と評価の落差

日韓・日本の歴史学者の間でも彼を日本による朝鮮の植民地統治のルールを引いたまぎれもない帝国主義者とみる見方と、彼を朝鮮の自治を尊重し（自治植民地構想）、朝鮮の近代化に心血を注いだ「よりましな帝国主義者」と評価する見方が今なお鋭く対立している。

(..省略)

Ⅳ 伊藤博文は朝鮮の自治を尊重した臆病な平和主義者だったか？

★ 恫喝外交—伊藤博文が主導した「第 2 次日韓協約成立」の実態は…「之（伊藤案）を承諾せられずとてその儘黙止するものにあらざることを記憶せよ」と脅迫するのみでなく「断然不同意なるも…（皇帝の）命令なら詮方なき」とする大臣も「賛成」とカウントし「多数」で決したことにする。（皇帝は賛成せよと大臣に命じたわけではない。）

そのとき侍従武官長ほか 3 人が抗議の自殺をしている。

★ 韓国李垠皇太子を「留学」の名目で日本へ拘引。日本政府は「留学」中の李垠を子供を産めないと言われていた梨本宮方子妃と結婚させ韓国「王家の断絶」を謀った。

Ⅴ 日本は国際法を守ってフェアに戦ったのか？

(1) 明成皇后殺害事件 (2) 旅順虐殺事件・（略）

Ⅵ 司馬遼太郎の朝鮮観の揺らぎとその限界

司馬の朝鮮観はその後、揺らいでいた。その揺らぎは朝鮮観にとどまらず、日清・日露戦争を「祖国防衛戦争」と規定した司馬の根幹的な歴史観にも及んでいた。

日露戦争は祖国防衛戦争だったか—歴史研究者の立場から— 井口 和起さん（京都府立大名誉教授）

I 日露戦争は、国民の命を守るための祖国防衛戦争ではないということ、日本が朝鮮に対する独占的支配権を確保するために始まった戦争であることは今や誰も否定しない。問題は、なぜ日本が朝鮮を支配しなければならなかったと考えたかということだ。

それは**第一**に、明治政府は明治の最初から朝鮮を無礼な

「われわれはいまだに朝鮮半島の友人たちと話をしている、常に引け目を感じますね。これは堂々たる数千年の文化を持った、そして数千年も独立してきた国をですね、平然と併合してしまった。併合という形で、相手の国家を奪ってしまった。こういう愚劣なことが日露戦争の後で起こるわけでありまして。むしろ朝鮮半島を手に入れることによって、ロシアの南下を防ぐという防衛的な意味はありました。しかし、日露戦争で勝った以上、もうロシアはいったんは引込んだのですから、それ以上の防衛は過剰意識だと思うのです。おそらく朝鮮半島の人びとは、あと何千年経ってもこのことは忘れないでしょう。」（1988 年『昭和』という国家』37 ページ）



後年のこの朝鮮観と、「韓国自身、どうにもならない。李王朝はすでに五百年もつづいており、その秩序は老化しきっているため、韓国自身の意思と力でみずからの運命をきりひらく能力は皆無といってよかった」（『坂の上の雲』第二分冊、50 ページ）という朝鮮観はどのような後知恵を以てしてもつじつまが合わない。

司馬はそれ以上、何も語らなかった。自分の歴史認識の不明を告白することは「国民的作家」司馬にとって堪えられなかったからか？しかし、そうすることで「国民的作家」としての司馬の体面は保たれたかもしれないが、『坂の上の雲』で歪められた歴史、貶められた朝鮮人の尊厳は回復されない。

Ⅶ 最後に朝鮮植民地統治の実態を外務省調査局が次のように回顧していることを紹介して結びにしたい。

「羊は羊として自由に野に放ち、草を喰わせておいた方が飼主にとっても気楽であり、経費も精々牧童と番犬位で安上がりだ。ところが羊を放牧すれば誰かに盗まれてしまうかも知れない逃げ出してしまふかも知れないと言ふ心配から一匹や二匹の損失を無視する度胸もなく経費を掛けて柵をめぐらし、却て羊を瘠せらせたり或は羊を畜生扱ひをするに忍びず、これに人間的待遇を與へんとして羊は却て有難迷惑をすると言ふ飼主もある。かういふ小飼主は所詮羊によって儲ける資格はないのである。」（『朝鮮統治の性格と実績』1946 年） ■

国（『木戸孝允日記』など）であるとし、近世的な日朝関係を「私交」と否定し、朝鮮は天皇国家に「朝貢」すべきであると考えたから。

第二に、江戸時代から「武威」に基づいて周辺の国々を服属させようとしてきた（小華夷秩序）、それを新たな「万国公法」体制の中での「国体論」的対朝鮮関係へ転換しようとしたから。しかし、「武威」は開港後幕藩体制の崩壊とともに崩壊した。どう「武威」を再編するか？山県有朋の建議によって、1880 年代から攻勢的戦略論

が成立し、1890 年頃には「朝鮮」を焦点に「武威」の近代日本軍国主義への転生がなされた。

II 開戦は避けられなかったか？

外交交渉の経過をたどっても答えを見つけることは難しい。日本は、朝鮮だけは絶対に譲らないという基本路線を定めて、ロシアとの外交交渉に入った。

この対露交渉の電訓案（在露公使宛）の起草を小村外相から命じられたデニソン氏は、開戦の断固たる決意が日本政府にあると判断するならば、つとめて友好的で平和への誠意を示す内容にするべきだとしている。（『石橋湛山全集』）

故に、外交文書から日本政府の真意は読みとれない。



III 「開戦世論」はどのように作られたか？

★新聞の責任は大きい。

「萬朝報」（1903.10.19.社説）は「事実の報道よりも寧ろ人を驚かすことを貴しとする傾向あり、人を驚かしむるが如き事実の欠乏せる場合には、これを製造して報道す」と書き、新聞の実態を自覚していた。

しかし、「萬朝報」もロシア「脅威論」に巻き込まれ、「開戦論」に転じた。他の各紙も同様。

★世論操作の形跡

「我が国民の多数は戦争を欲せざりしは真実なり、政府が最初七博士をして露国討伐論を唱へしめ又対露同志会などを組織せしめて頻りに強硬論を唱へしめたるは、斯して以て露国を威圧し、因て以て日露協商を成立せしめんと企てるも、意外にも開戦に至らざるを得ざる行掛（ゆきがかり）を生じたるものの如し。」（『原敬日記』明治 37.2.11）…「開戦とならば国民は無論に一致すべきも、今の情況にては国民の多数は心に平和を望むも之を口外するものなく、元老と雖も皆然るが如くなれば、

少数の論者を除くの外は内心戦争を好まずして而して実際には戦争に日々近寄るものの如し」（『原敬日記』明治 37.2.5）

日本のジャーナリズムは、このことについて深刻な自己批判をしているのか。

現在の日本の大新聞あるいは大放送は、「坂の上の雲」のことだけでなく、日本の現在の様々な問題についての報道をどう考えてやっているのかを、我々は真剣に考え見抜く力を持たねばならない。

IV 国民は本当に「国難」だと思っていたのか？

色川大吉氏は『明治の文化』で、「私は日露戦争は国際的な意味での帝国主義戦争であったと思う。だが、その複雑であったところは、…中略…日本とロシアの衝突を宿命的な『国難』として受け止め、民族存亡の危機を一身を捨てて打開しなければならない、と観念した日本人の意志であった。」といっている。ここで問題は、開戦前に日本人が『国難』だと受け取っていたかということである。

我々は、開戦前と開戦後をきちんと分けて、それぞれに議論を立てていかなければ、祖国防衛戦争論の泥沼に陥ってしまう。色川氏のいわれるような日露戦争の性格を、国民的に大宣伝してそのようなイメージを作り出したのは、日露戦争が終わってから 25 周年（1929～30 年）以後。

30 年代にはいると柳条湖事件が始まる。その前後の 25～30 周年に、**大々的な日露戦争記念行事**が行われ、「敵中横断三百里」が出た。

1923 年生まれの司馬遼太郎は、少年の頃これを読み、そのイメージがいつまでも残っていたのではないだろうか。

★ 自分が始めた戦争に、もし敗北すれば「祖国を失う」。だからそうならないように戦うのが「祖国防衛戦争」だというのは、議論の逆立ちである。 ■

司馬は明治日本像をどうやってつくったか

—その「からくり」

高井 弘之さん（『検証—坂の上の雲』著者）

日清・日露戦争は清・露との戦争だがこの期間の核心的当事者＝朝鮮の抵抗を排除する戦争（東学農民戦争、王妃暗殺、義兵掃討）は知られていない。「坂の上の雲」はこれを「削ぎ落と」し排除する。日清・日露は朝鮮植民地化戦争の派生物であるともいえる。

I 賛美すべき「明治日本像」の作り方 視点と立ち位置
「われわれ日本人（の内支配層の男）」の物語
「第三艦隊は全滅してもよかった。..ぜんぶ沈んでも日本側にとってごく小さな損失でしかない。」

（兵の命は無料とみる司令官に自らをなぞらえる）

★ 証拠・根拠・史料を示さず断定的に賛美

「世界史のうえで、...日清戦争から日露戦争にかけての十年間の日本ほどの奇蹟を演じた民族は、まず類がない。」「何しろ人類が戦争というものを体験して以来、こ

の戦いほど完璧な勝利を完璧なかたちで生みあげたものはなく、その後にもなかった。」

・ ・ そんなことどうしたら解るのか。誇大妄想的。

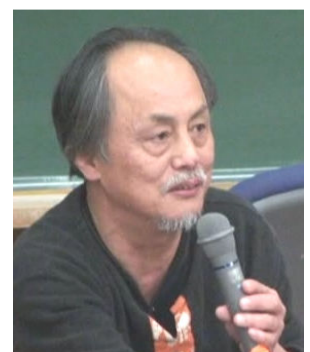
★ 歴史歪曲

- * 日本軍のみは一兵といえども掠奪をしなかった。
- * 前代未聞なほどに戦時国際法の忠実な遵奉者として終始。
- * 中国人の土地財産をおかすことなく、...（全部ウソ）

★ 歪曲できないときは詐欺的手法で正当化

- ① 都合良く定義した「時代」のせいにする。

「他国の植民地になるか、...帝国主義国の仲間入りするか、その二通りの道しかなかった。...日本は維新によって自立の道を選んでしまった以上、すでにそのときから他国（朝



鮮)の迷惑の上においておのれの国の自立をたもたねばならなかった。」…「だからしかたがなかったのだ」と正当化のためのいいわけ。

日本は「帝国主義的アジア分割」の旗振り役となった。

② 地理的位置のせいにする。

「原因は朝鮮にある。といっても、韓国や韓国人に罪があるのではなく、罪があるとすれば、朝鮮半島という地理的存在にある。」…戦争を起こす「国家の能動的意図」の隠蔽、免罪。

③ 都合の悪い設問は「科学」という言葉を恣意的に使って封印。

「どちらがおこしたか、という設問はあまり科学的ではない。…四捨五入してきめるとすれば、ロシアが八分、日本が二分である。…この皇帝(ニコライ二世)の性格、判断力が、この大きなわざわいをまねいた責任を負わなければならない。」

「ロシアの態度には、弁護すべきところがまったくない。…日本を窮鼠にした。死力をふるって猫を噛むしか手がなかった。」

④ 「当時の世界観は違っていた」と正当化。(略)

★ 日本型オリエンタリズムー朝中露と日本を優劣関係で描くことにより日本賛美。

Ⅱ 司馬はなぜ賛美すべき「明治日本像」をつくったかー司馬の願う「日本像」の構築へ(略)

司馬の反戦的言辞もあるが明治の「常識」すなわち

1.征韓論 = 「王政復古」したのだからと「記紀神話 = 神功皇后三韓征伐的朝鮮の属国化」を当然視。

2.日清戦争 = 「文明と野蛮の戦争」との「思想・認識の枠組みの中」つまり福澤諭吉と司馬は同じ枠の中いる。「文・野の戦争」論は「ブッシュ戦争」の中でも現れている。 ■

「坂の上の雲のまちづくり」報告

武井多佳子さん(松山市議会議員)

第一の問題は、松山市は「坂の上の雲」を軸とした 21 世紀のまちづくりの基本理念を作成し、貴重な指針にしようとしていること。

小説に一つの解釈をつけ、まち全体の政策に組み込ん

でいった事は大きな間違い。ドラマが始まる前に教育長が小中学生全員にチラシを配った。これが一つの解釈を持って進めていく問題の象徴的なことではないか。

第二は、箱物ありきの事業だということ。

町全体を屋根の無い博物館、フィールドミュージアム構想とし、30 億円をかけて記念館、ミュージアムを建設した。年間 1 億 9000 万円ほどの維持費がかかる状況となっている。

第三の問題は、協定書に基づくまちづくりだということ。

基本計画の具体化に際しては、「司馬遼太郎記念財団が意見を述べ、意義を述べる権利を保有する」との協定書を取り交わした。記念館の建設や展示計画、監修、入場料に至るまで、すべて財団の許可を得、手数料を払わなければならない。まちづくりとは誰でも自由な発想で関われるもので無ければならない。

第四に、作者自身も映像化を望んでいなかった小説をまちづくりに取り入れた市政の責任は大きい。

今問うべきはアジアの国々を植民地化した歴史の真実から目をそらして、何故わくわくするのかと言う事ではないか。この課題を乗り越えて始めて、松山市の国際文化観光都市が名乗れるのだと思う。

広告代理店に多額の税金を払って描いてもらった事業を後付の委員会です承するような形で、市民参加といえるのか？

何より一貫して主人公たちを、高い志を持ってひたむきに努力する人たちと訴え、市民にその実現に向けて努力するよう訴えている。しかし努力しても報われない事が沢山ある。そんな弱い立場になった時の支え合いや分かち合いこそが行政が担う役割だと思う。ぜひ冷静な目で多方面から評価、検証してほしい。

議員になってから三期目、ずっと坂の上のまちづくり問題を議会でやっている。議会だけでなく、この問題点を全国的に取り上げてもらいたい心強く思っている。

■



パネルディスカッション

司会進行：伊地知紀子准教授

(愛媛大学法文学部)

●伊地知 私は韓国済州島の生活史を 15 年にわたりやってきました。途中 2 年間は島に住み込み、生活を共にしました。島民は 100 歳以上の方が少なくなく彼らにとって「韓国併合 100 年」は決して過去の事ではない。

私たちが知らされてこなかったことは何か。

●安川



(伊地知さん)

と言っている。

●醍醐

さらに補足すれば司馬は「坂雲にか

「たかが小説ではないか」との質問があったが司馬自身が「この小説は…事実拘束されることが 100%にちかい」「どうにも小説にならない主題」

ぎっては..事実関係に誤りがあればどうにもならず..気がついたところがあれば訂正..を繰り返した。」と書いている。

対話には共通の「事実」の基盤が必要だ。〈歴史観〉などというまえに「事実認識」がなさすぎると言う意味で、今日は当時の当事者の「事実」を指摘した。

●井口

「事実拘束される」件について言えば「軍事面」に限定しても「旅順攻略」など誤りが多い。

それより歴史を語る場合、戦争の舞台となった朝鮮を頭にいれない「歴史像」など全然ダメという真偽を見分ける力。これが国民の中にある。この国民的合意、枠組みができていないがため、外交戦略がたたない。

「ここが「外国から見られている」という重要な点に日本人は気がつかない。だからこだわらざるを得ないわけです。

明治の政治家たちは「外国からどう見られるか」「バカにされたくない」との意識が過剰なほど強かった。

●高井

大多数の人が「坂雲」のなかで実在の人物が語っていることは事実と思ってしまう。(実際は司馬の考えをしゃべらせられている) 司馬は「従来の歴史学者の日清・日露戦争観」は間違っている、とし「新しい歴史観」を強調している。この部分は「小説・フィクション」ではない。

司馬は「昭和は例外」とし、“美しい本来の日本像”を造形した。

●伊地知

本日のシンポジウムは集中講義 15

回でも足りないほど濃密なものだったとおもいます。

●安川

22 年間学生のアンケートを採っているが、基本的で重要なことが教えられていない。

1. アジア太平洋戦争の開始日を知っている学生はゼロ、(終了日はかろうじて半数が○)

2. 戦後、独伊で国旗国歌が改められた事は教えられていない。

3. 憲法違反確定の靖国参拝に賛成の学生が 70%以上。

(会場から) 学生だけでなく大人も教えられていない!

●醍醐

公共放送 NHK は「異なる意見の場の提供」が必要と考える。

まず「最低限同感できる場」から出発すべきではないか。

●井口

「異なる意見」との対話を重視した運動の進め方に賛成。

残念なことに学者仲間でも 1905 年の日韓協約有効派と無効派の間の対話は期待できない状況。

良心的兵役拒否については湾岸戦争参加は祖国防衛と関係ないとして兵役拒否した韓国兵の観点も重要。

●安川

「良心的軍務拒否」は現代の問題であり「エーレン・ワタダ陸軍中尉、パフ少佐(独)」の例をあげておいた。

●高井

日本社会で加害認識を妨げる要素をかえてゆく。

NHK プロジェクト JAPAN は「植民地の危機の強調」により加害側面を免罪している。

また「弱肉強食の世界で伊藤もアン・ジュングンも国の独立のために戦った」とのべ、二人を同列におく。

●武井

「坂の上の雲のまちづくり」の後ろには大変な問題があると感じました。

●学生

明日 学術講演会「日朝関係を考える」と題し、学生発表「韓国併合と現在を問う、韓国研修発表」、

前広島市長・平岡敬氏の講演「朝鮮人被爆者の復権」がグリーンホールでありますので是非ご来場を!

意見交換会・質疑応答

(パネリストを囲んで)

司会進行: 西原一字さん

「実行委員会」 共同代表

●中島

日韓併合は不当だが合法・有効論(海野「日韓併合」等)が優勢で政府見解でもある中、NHK の放映はだめ押しになっている。

「坂雲」が明治ではなく現在の問題という共通認識が必要。

また大逆事件 100 年も無視されている。

昨年 7 月に京都でスタートさせたものとして、本日松山で全国シンポジウムが開かれたことに感銘を覚える。

○岡田

安川氏の著作を読み、福澤がこれ程「朝鮮・中国蔑視観をあおっていること」を知り、愕然とした。彼は朝鮮・中国にいったことがあるのか?

●安川

福澤は三度の洋行の途中「印度、支那」に立ち寄っている。(印度・支那

の土人等を御すること英人に倣うのみならず、その英人をも窘(くるし)めて東洋の権柄を我一手に握らん)

福澤は最初は日中朝鮮は「文明、半開、野蛮」の「半開」段階に同列にあるとし、最初から朝鮮・中国蔑視観をあおったわけではない。朝鮮侵略を決断して(武力を用

いても其の進歩を助けん) からその合理化のために蔑視観を垂れ流した。

○ 井口さんへ質問です。維新政府が朝鮮を朝貢国と見なした件。朝鮮通信使はどうだったのか。

○ 井口

通信使については未解明の部分が多すぎる。別途場を設けたい。

なぜ日本人は幕末明治ものが好きなのか。

明治維新は日本民族の誇りの出発点でもある。(自力でやったことは評価できる)

NHK プロジェクト JAPAN は「日露戦争」の取材にきている。



(西原さん)

韓国には取材に行けないということが最大の欠陥。中国へは行った。

○ (JCJ)

キム・オッキュン(金玉均)と脱亜論の関係。韓国学者の考え。

韓国では「歴史を動かす力」をどう理解しているか。

●高井

司馬も小説の中で「秩序を突き崩す下からの力」に言及しているがそれが「歴史を動かす力」とは全くみていない。しかし東学農民軍の中には「自主自律」の「独立共同体」が芽生えていて「朝鮮の悪政改革」をめざした。日本軍はこれを「悉(コトゴト)ク殺戮」した。

●安川

金玉均と脱亜論の関係は週刊金曜日の論争のなかで雁屋哲が適切にのべているので見て欲しい。

<http://goo.gl/V1HOW>

○松山 サラリーマン

松山は大政翼賛会状態で司馬遼太郎を批判できない。

なぜ司馬遼太郎がこんなに読まれるのか。醍醐さんへ質問 NHK 杯など

で広告がたくさん出ているが問題にならないのか。

○学生

司馬は“明るい明治と暗い昭和”イメージと大衆迎合的発言で国民作家となった。司馬の立ち位置は？

○愛媛大法学部 学生

たとえば松下幸之助を尊敬し彼を目指すような学生にとってこのような批判は有効か。

●高井

司馬の本を読んで気持ちよくなるという話があったが、NHKに出した質問状の回答は“現代日本人に勇気を与える”というものだった。現実から離れた物語、ひとりよがりの物語からくる勇気とはどんな勇気か。別なところでその勇気をさがすべき。

○一女性

NHK の番組で司馬は「戦争責任」について問われたとき“ノーコメント” “次世代に求める”といった。どう思うか。

●安川

戦争責任に誠実に自主的に向き合っていることが、判断のメルクマール。家永三郎は自らの責任を自覚し「教科書裁判」を起こしたが、その親友、丸山眞男は共産党の前衛としての戦争責任を論じる一方、みずから「わだつみの学徒兵」に（一人一人が主体的に祖国の運命を担う）（個人個人の自発的決断を）と呼びかけたことについては固く口を閉ざしている。

●醍醐

国家の責任と個人の責任は分けて考えるべきだが、無関係ではない。

国家責任を否定するたとえば「日本は明治維新ができ、近代化した、中国や朝鮮半島は近代化できなかった。日本は植民地を広げる側で、中国や朝鮮半島は植民地として侵略される側になったというのは、歴史的な必然だった」（2010年3月27日、枝野幸男・民主党幹事長）のような政治家を選出する国民の責任はどうか。

●西原

今回の「全国シンポジウム」準備、手配はほとんど愛媛大の学生さんがやってくれました。深く感謝します。..（拍手）■

「坂の上の雲」第2部・第1回を見て

歴史の文脈を無視した「歴史ドラマ」

梅田 正己（書籍編集者。著書『これだけは知っておきたい近代日本の戦争』他）

さる 12 月 5 日放送の「坂の上の雲」第2部第1回を見ました。

二つほど、大きく引っかかった点があります。

一つは、伊藤博文の描き方、いま一つが義和団戦争の扱いです。

伊藤は去年の第1部を受けて、やはり非戦（避戦）平和主義者でした。



しかも、昨年は受身の軟弱な(?)平和主義者でしたが、今回は自らロシアへ出向

いて日露協商条約の締結を画策する、アクティブな「行動する平和主義者」です。

このような伊藤に焦点を当てることによって、ドラマは「明治日本の平和主義」を強調したわけです。

しかし、今の私にはこの問題に踏み込む用意はありませんので、もう一つの問題、19 世紀末の義和団戦争について述べることにします。

義和団についての説明の中で、「拳匪」という文字が画面に写されました。

「拳」の字は、義和団がもともと武術結社が集まって生まれたことから用いられたのですが、「匪」はもちろん「匪賊」を意味します。「拳匪」とは、義和団に敵対する勢力が、義和団をさげすんで使った呼称です。

当時の日本では、そのように言ったのでしょうか。しか

し 100 年がたった現在、当時使っていたからといって、差別語を何の説明もなく無造作に使っていいものでしょうか。

義和団の運動は、1898 年、山東省でのドイツの侵略に対する反発から始まり、翌 99 年から 1900 年にかけて、北京、天津を含む華北一帯に燃え広がりました。

スローガンは「扶清滅洋」—清国を扶（たす）け、西洋を滅ぼす、です。義和団運動はつまり、反帝国主義民族闘争でした。

これに対し、列強 8 カ国はその鎮圧のため出兵します。独、英、米、仏、露、伊、オーストリア、それに日本の連合軍です。

帝国主義国連合軍は総勢 7 万、うち 2 万 2 千を日本軍が占めていました。

清国の首都・北京に乱入した連合軍は、ドラマにもあったように、破壊と略奪の限りを尽くしました。

さらに戦後、連合軍に占領された北京で、清国は北京議定書により、連合国に対し、何十年かかかって払えないような天文学的な賠償金を課されることになります。あわせて北京、天津地区での外国軍の駐兵権を認めさせられました。

こうして中国は、以後半世紀にわたり、半植民地状態に置かれることになります。

この義和団戦争は、日本では今でも「北清事変」と呼ばれ、何となく影の薄い存在ですが、実は東北アジア近代史の上で重要な画期となった事件でした。

そしてその直接のきっかけをつくったのが、日本だったのです。

日清戦争で清国に勝利した日本は、下関条約で台湾を取得するとともに、賠償金 2 億両を手に入れます。当時の日本の国家予算の約 4 倍、莫大な賠償金です。

このような大金は、清国の金庫にはありません。では、どうしたか。

清国は、欧米列強から借りたのです。もちろん、「担保・

抵当」を入れたことです。

以後、1895 年から 99 年にかけて、帝国主義諸国による侵食がいつせいに始まります。重要な土地・港湾の半永久の租借、鉄道の敷設を軸とする利権の争奪戦です。

新興国・日本に敗れたことから、「眠れる獅子」が容易に目覚めないことを知った列強は、遠慮会釈なしに中国に襲いかかったのです。

こうした帝国主義諸国の侵食・侵略に対して中国民衆が立ち上がったのが、義和団戦争でした。

以上のような「歴史の文脈」を押さえていれば、民衆の抵抗を「拳匪」の二文字で片付けることは出来なかったはずで。

まして、北京に乗り込んだ騎兵隊の隊長・秋山好古の「ヒューマニズム」の見せ場として気軽に使うことなど。ところで、今回のドラマの中に、英国で再会した秋山真之と広瀬武夫が、英国海軍士官の晩餐会(?)に招かれる場面がありました。

そこで、英国士官が、日本はせいぜい生糸を輸出して金を稼ぎ、英国製軍艦を買ってくれ、と冗談めかして言

ったのに対し、真之が憤然としてこう言い返します。
——生糸を売った金じゃない。日本国民が爪に火をともしようにして貯めた金で買う軍艦なのだ。

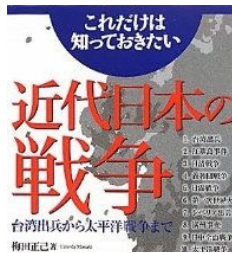
しかし、これは事実と反しています。
日清戦後の日本政府が軍拡のために増税に取りかかったのは確かですが、しかしこのとき英国に支払った資金の出所は国税ではありません。

先に日本は清国から 2 億両の賠償金を得たと書きましたが、その賠償金を日本は 3800 万ポンドの英貨で受け取り、その半分近い 1750 万ポンドを投入して、戦艦 6 隻を含む軍艦を英国で建造したのです。

早くも第 1 回にして「歴史の文脈」を無視したドラマづくり、今後の展開が危ぶまれます。(了)

(注) 梅田正己氏の著作『これだけは知っておきたい 近代日本の戦争』でさらに詳しく言及されていますのでご覧ください。

<http://bit.ly/gX2u0s>



「坂の上の雲」第 2 部放映開始にあたり NHK に質問書を提出しました。

「視聴者コミュニティ」は NHK 福地会長、日向放送総局長、西村プロデューサー 宛に下記のような 2 項目の質問書を提出しました。(2010 年 11 月 21 日)

全文は→ <http://goo.gl/RfJ78>

〔質問 1〕NHK はドラマの制作にあたって日本各地はもとより、モンゴル、中国、ロシアなどでもロケを行ったと公表されていますが、私たちが見る限りでは原作が扱った日清・日露戦争の主な舞台(戦場)である朝鮮半島でロケをされた形跡がありません。実際はどうだったのでしょうか？

(1) 朝鮮半島でもロケをされたのであれば、それはどのあたりでしょうか？

(2) 朝鮮半島ではロケはされなかったのであれば、それは当初から計画されなかったのでしょうか？ それとも計画はされたものの実現に至らなかったのでしょうか？ 前者、後者いずれであれ、その理由を添えてお答え下さい。

〔質問 2〕昨年放送された第 1 部の第 4 回「日清開戦」の中で、従軍記者として朝鮮半島に出掛けた正岡子規と軍医・森林太郎(鷗外)が金州の森の宿舎で出会い、語り合う場面がありました。その中で、鷗外は子規に向かって、「戦争の本質から目をそらして、やたらと戦意をあおるだけの新聞は罪深い。正岡君が書く従軍記事なら、写真でなくては困るよ」と語りかけました。

しかし、こうした会話は原作にはなく、鷗外、子規それぞれが書き残した従軍日記や 2 人の従軍体験を調査・研究した文献を調べても、1895(明治 28)年に 2 人が金州で 2 度会ったことは確認できますが、鷗外が上記のような発言をしたことを裏付ける記録は見当たり

ません(後掲参考をご覧ください)。

ドラマの中で鷗外の上記のような発言を挿入されたのは、どのような事実なり記録に依拠したものなのか、お教え下さい。 以上

〔参考〕

鷗外の「徂征日記」を読みますと、鷗外と子規が 1895(明治 28)年 5 月 4 日と 5 月 10 日に会っていることは確認できます。しかし、その日記には「子規来たり。俳諧の事を談ず」(4 日)、「子規来たり」(10 日)と記されているのみです。また、この時期のことを記した子規の「陣中日記」には鷗外と会ったこと自体が記されていません。

さらに、鷗外の従軍体験について詳細に考証した末延芳晴『森鷗外と日清・日露戦争』(2008 年、平凡社)では、次のように記されています。

「軍医部長として書きつづっていった『中路兵站軍医部別報』や『第 2 軍兵站軍医部別報』といった公式記録に比して、私的記録として書かれた『徂征日記』の記述は極めて短く、そっけないほど簡略である。また、その記述内容は、軍医としての公務をこなす鷗外の行動や、行軍の途中や駐留地で目にした朝鮮や満州・中国の自然風土、人々の暮らしぶりについての観察記録が主体であって、軍医部長として知り得たであろう戦闘がもたらす悲惨な結果についての具体的な記述はほとんどない。また戦争の本質について鷗外個人が抱いたであろう思念や感慨についても、まったく表出されていない。〈以下、略〉」(35~36 ページ) ■



12月3日付でNHKから回答が届きました。

（「坂の上の雲」プロジェクト エグゼクティブ・プロデューサー 西村与志木氏 名で）

〔質問 1〕の回答は

「朝鮮半島では撮影をしておりません。ドラマではシーンにおける設定と同じ場所で撮影をするとは限りません。朝鮮半島を舞台としたシーンは日清戦争における日本軍の仁川上陸のシーンしかなく、撮影の効率を考え多くのシーンがあった中国で撮影しました。」

〔質問 2〕の回答は

「森鷗外の「徂征日記」に正岡子規に会ったとの記述があります。それをヒントに第 4 回の鷗外と子規のシーンを作りました。台詞はドラマの主旨に基づいて作ったオリジナルです。」・・・とのことでした。

実在の人物がドラマの中で語っていることに事実とフィクションが混在した場合、一般に視聴者は判別のしようがなく、大多数の人は全部が事実とってしまうでしょう。今回は森鷗外についてですが、これが「歴史的事件」について、ドラマだからといって事実とフィクションが混在したらどうなるのか。

「近現代史」の学校教育の貧弱さが指摘される中で NHK ドラマが学校教育の補完物になっている面がある事も事実です。

この点については当会代表「醍醐聰のブログ」の以下の論考を参照してください。

★楽しめればよいといって番組制作者は史実を切り張りしてよいのか？ <http://bit.ly/e3swJw>

★歴史小説・歴史ドラマは史実からどこまで離れられるのか？ <http://bit.ly/gZEC9e>

NHK 大阪放送局と懇談 (2010/10/26)

(NHK 問題・近畿 3 市民団体)

(兵庫の会ニュース 17 号より転載)

番組制作の苦労話や番組についての意見交換

NHK 大阪放送局との懇談会を局の 15 階会議室で行いました。今年 2 回目でした。新任の井上副局長が来られたので、最初に自己紹介を行いました。

参加は NHK 側から副局長、広報部のお 2 人、視聴者側から NHK 問題大阪連絡会 (1 名)、NHK 問題京都連絡会 (3 名)、NHK 問題を考える会 (兵庫) (3 名) でした。

今回の懇談会に申し入れたテーマは、①大阪放送局の番組制作や仕事の内容について聞く ②この間の視聴者・市民グループの活動について ③経営委員の交代や NHK 会長選挙・地デジ問題についてなどでした。

神戸での「メディアを考える市民のつどい」のアンケート「NHK への要望」を 1 冊にまとめて渡しました。貫名さんの挨拶に続いて、井上副局長の経歴などをお伺いしました。

井上さんは名古屋局からの転任。神戸出身で、阪神淡路大地震のときは神戸で被災されたそうです。これまで担当した番組は、NHK スペシャル「人間は何を食べてきたか」、「クローズアップ現代」など、長い経験は「明るい農村」「おはようジャーナル」などの早朝番組です。

「生活ほっとモーニング」の部長をされていて、現在の「あさイチ」の提案者だそうです。

懇談の主な内容は次のようなものでした。

大阪放送局はどのような番組を作っているか

ニュース・報道番組以外に全国放送の優れた教養・特集番組を作っていることが紹介されました。

「歴史秘話ヒストリア」「その時歴史が動いた」「ルソンの壺」、芸能・バラエティーでは「あはやねん！すきやねん！」「バラエティー生活笑百科」など、教育・福祉番組では「ストレッチマン・ハイパー」「きらっといきる」など制作しています。大阪発のスペシャルドラマ「大阪ラブ&ソウル」も「ぜひ、見てほしい」と紹介されました。その中で今度の「あさイチ」は民放的ではないか、という意見が出ましたが「あさイチ」はワンテーマでニューススタッフを抱えた新企画だそうです。「番組が新しくなった時はいつもそういう意見が出るが、そうではない意見も多くある」と制作の苦労話も話されました。

視聴率の調査方法はどのようにして行う？

アンケートにあった「視聴率調査方法についての問い」については、民間調査会社「ビデオリサーチ」が 2000 人程度を数キロメートル圏に数人をランダムサンプリングしてテレビに機器を付け視聴番組を連続監視する方法で、放送局からは調査の実態はつかめないようになっているとのことでした。

番組審議会に一般の視聴者は申し込めないのか

「推薦基準と方法は、『豊かな学識経験を有する方』となっており、近畿から 11 人、連合大阪会長、財団法人、NPO 法人、経営者などを NHK 会長が委嘱する。公募推薦はしていないので一般からは難しい。NHK は番組審議会議事録を『考査室』という番組で公開しているのでみてほしい。NHK 大阪放送局のホームページにも載っている。月 1 回、内部で活発な意見交換をしています」とのことでした。

安保条約や沖縄報道が少ないようだが

「政権党に気を使っているのではないか」との意見に「そんなことはない、今年は安保、沖縄で優れたドキュメンタリーをたくさん作った」との答え。「確かにドキュメンタリーは素晴らしかったがニュース報道では少ない。「慰安婦問題は、番組改ざん以後、10 年間一つも作られていない。慰安婦問題の番組と改変事件の検証番組を作してほしい」と申し入れました。

「歴史秘話ヒストリア」など番組制作者の話が聞けない

か
「講演会に来てもらえないか」との要望には「歴史認識の違いが問題になると困るので、検討する必要がある」との答えでした。

その他の申し入れ－「不偏不党、公平中立の報道を」など

京都連絡会、大阪連絡会から民主党代表選挙を国会審議より優先し、NHKが民主党の宣伝局化している。ニュースが2大政党に偏っている。公平な報道を、という申し入れをしました。 ■

次期 NHK 会長選出に当たっての 要望書を提出しました。

NHK 経営委員会経営委員各位御中 2010/11/22
次期 NHK 会長選出に当たっての要望書

NHK を監視・激励する視聴者コミュニティ

共同代表 醍醐 聡・湯山哲守

経営委員の皆さまにおかれましては、日夜 NHK が自主・自律を堅持し、健全な民主主義の発展と文化の向上に寄与するように、激励し監督する使命を果たさんとしておられることに敬意を表します。

さて NHK 会長の任期が来年 1 月に迫ってきました。当会は、前回の会長選出に当たり、全国の市民団体と共同で 2007 年 11 月 26 日、「NHK 次期会長選出に際しての申し入れ」を行いました。それはつぎの 3 項目です。

① 会長の選出基準については、ジャーナリズムと放送の文化的役割についての高い見識を持ち、言論・報道機関の責任者として、放送の自主・自立の姿勢を貫ける人物であるかどうかを判断の柱にすること。

② 会長選出の審議経過の議事録を公開し、説明責任を果たすこと。

「放送を語る会」は 2010 年 7 月の参院選挙報道をモニターし報告と提言をまとめました。

「2010 年参院選・テレビ報道を検証する ～モニター報告と提言～」 全文は→ <http://bit.ly/eMEUK2>

モニターを行なうにあたって重視した視点は次のようなものである。

- 1) 各政党の政策や主張が公平に伝えられているか
- 2) 政治的争点がどのように報道されているか
- 3) キャスター・コメンテーターの論評、報道姿勢や編集方針に問題はないか

(以下提言部分を紹介)

<私たちの提言>

提言 1 政党の時間配分を見直し、平等・政治的に公平な選挙報道を

一般的な政治報道とは一線を画して選挙報道（公示日から投票日まで）では、より一層厳格に平等・政治的公平が貫かれるべきであろう。

例えば、

- ★ 各政党の紹介順は比例区の届け出順に基づくこと
- ★ 党首インタビュー、各政党代表による政治討論、公約・政策の報道などでは、現状の国会議席数を勘案

③ 経営委員会が公募した会長候補の中から会長を任命する公募制を採用すること。

しかし古森前経営委員長の専断的な選出主導で決定されてしまったことは記憶に新しいことです。他の経営委員でさえ十分に議論ができず、提案日に即採決を強行するという短兵急な選出は二度と行うべきではありません。当然のごとく私たちの「申し入れ」は完全に無視されました。もともと NHK 会長の選出方法は経営委員会の合議で決することができるのですから、上記③の「公募制」も経営委員会の意思一つで実現できるものです。

今回の選出に当たり改めて上記 3 項目を要望しますが、同時に、前回の教訓から次の 1 項目を追加したいと思います。

④ 会長候補について、指名委員会で「候補者」が絞られたあと、経営委員会で即決しないこと（少なくとも 1 週間をおくこと）。およびその間に「候補者」に「ジャーナリズムと放送の文化的役割についておよび NHK 会長就任への抱負」等の所信を表明する機会を設けること

会長選出に当たって貴委員会の小丸委員長は、今月初め福地会長について「『続投していただけるものと確信している』と述べ、福地会長に再三にわたり続投を求め、そこそこの反応を得ているという」と報道されました（11 月 9 日付「産経新聞」）。この報道が事実なら、小丸委員長の越権行為は許されるものではありません。

経営委員会の議を経ずに委員長が勝手に「続投」の要望を公表し、しかもそれを実行するということは前回の選出過程から何も学んでいないというべきです。

経営委員各位が上記私たちの要望を精査し、国民・市民に開かれた NHK を実現するために受け入れていただくよう重ねてお願いする次第です。 ■

した各政党の時間配分を見直すこと、

★ 無所属候補・議席を持たない政党についても充分配慮してより平等に近づけること、

★ 過去に新聞・テレビでも行なわれた実績のある 2 党間討論を復活すること、

等々、テレビ選挙報道の改善を求めたい。

提言 2 政治的争点の報道は多角的に掘り下げて

有権者が各政党の政策を比較検討して選択するための貴重な情報源である選挙報道で、メディアが争点を一方的に絞ることは、有権者の「知る権利」を阻害し公正な判断を誤らせることが強く危惧される。結果的にメディアが争点隠しに手を貸すことになることを指摘したい。

政治的争点の報道に当たっては細切れの党首演説の羅列や、断片的・表面的な各政党の公約・マニフェスト紹介ではなく、メディア独自の視点から有権者・市民の生活実態や要求とその時々政治・社会状況を基に、多角的に掘り下げ問題提起する力量と見識を求めたい。

提言 3 政局報道から政策論議へ

選挙報道がタレント候補の動静、政党の駆け引きや党内抗争などの政局報道のみに目を奪われず、有権者の政治選択に役立つ政策論議を深めることに主眼を置いた方向へ転換されることを要望する。 ■